



## 今日から安全衛生担当シリーズ 産業医の仕事

著者：坂田晃一、福成雄三 発行：中央労働災害防止協会 定価：(1,700円+税)

産業医となる要件の1つに日本医師会認定産業医の資格があり、50時間の研修を修了することを求められる。

限られた時間の中で産業医に必要な様々な知識を正確に習得しなくてはならないので、講義はどうしても法的な要素に力点がおかれ、実践的な知識を得られる機会は少ない。そのため、産業医を始めたばかりのときは実践面で迷うことが多いものだが、本書はそうした部分を丁寧にカバーしてくれている。

I章のタイトルが「第一歩を踏み出す」である。こんなところから始まる本はなかなかない。産業医を始めた医師のことを親身になって考えてくれている。

内容は的確だ。IからVの5章に分かれてテーマを整

理してあるが、とくにII章の「基本的職務について考える」が素晴らしい。II章は、安全衛生委員会、産業医巡視、健康診断、メンタルヘルス、過重労働など各項目ごとに簡潔にまとめられており、例えば、メンタルヘルス関係で企業から相談を受けたときには、「メンタルヘルス対応の考え方」という十数ページの項目を読むと重要なポイントと、実践的な知識が効率よく吸収できる構成だ。ほかにも、適宜、参照すべき資料も教えてくれるので情報量は1冊の本を超える。

本書は産業医のみならず、産業医と関わる産業保健スタッフの手元にも置いておきたい1冊である。

たざき りょう  
田崎 亮

(株)スマイルスクリエイション 代表取締役社長  
産業医 労働衛生コンサルタント、メンタルヘルス法務主任者)



## プレゼンティーイズム その意義と研究のすすめ

著者：武藤孝司 発行：星和書店 定価：(2,600円+税)

健康経営、事業場における治療と仕事の両立支援などを背景に、近年、産業保健において注目を集めるようになったキーワードの一つに「プレゼンティーイズム」がある。

本書は、このプレゼンティーイズムについて、豊富な文献レビューをもとに、研究の歴史、定義、測定方法を整理したうえで、疾患や生活習慣とプレゼンティーイズムとの関連、プレゼンティーイズムへの対応策をまとめ、プレゼンティーイズム研究の課題と意義を提示している。

産業保健・ヘルスプロモーションを専門とする著者は、「健康問題を持ちながら出勤している状態」をプ

レゼンティーイズムとして定義する立場をとり、健康問題を抱えた労働者の働き方について幅広い見地から検討することを提唱している。その背景には、がん、糖尿病、虚血性心疾患やメンタルヘルス不調を有する労働者やストレスを感じている労働者の増加が挙げられる。

本書はプレゼンティーイズム研究を始めようとする研究者に最良の書である。しかし、プレゼンティーイズムの測定方法も一覧表にまとめられているなど(第3章)、産業保健の実務者にも有用な情報が提示されている。プレゼンティーイズムに関わる研究者・実務者ともに、ぜひ一読をお勧めしたい一冊である。

しまず あきひと  
島津 明人

(慶應義塾大学総合政策学部教授)

### 編集委員 (五十音順・敬称略)

委員長 相澤 好治 北里大学名誉教授  
大西 洋英 独立行政法人労働者健康安全機構産業保健担当理事  
加藤 隆康 豊田衛生管理者研究会顧問  
井内 努 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長  
甲田 茂樹 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所所長代理

興梠 建郎 新潟産業保健総合支援センター所長  
田中希実子 NTT東日本健康管理センタ看護部長  
浜口 伝博 ファームアンドブレイン社代表/産業医  
東 敏昭 学校法人産業医科大学学長  
松本 吉郎 公益社団法人日本医師会常任理事